



インフラツーリズムと地域共創 十勝岳インフラ・ジオツアー催行まで

国土交通省北海道開発局開発監理部開発連携推進課

はじめに

インフラツーリズムは、多くの方々にインフラの役割について理解を深めていただくことができるほか、インフラという地域資源を活用して地域経済を活性化することも可能であり、その社会的意義は大きいものです。

こうしたインフラツーリズムの概念は、2013年に閣僚会議で取りまとめられた「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」において打ち出されました。この頃から、北海道開発局では、全国に先駆けて観光としてのインフラツーリズムに取り組み、インフラ見学を旅行行程に取り入れたツアーを旅行会社に催行いただく「公共施設見学ツアー」を開始しました。現在では、北海道開発局と地域の共創により、公共施設と様々な地域資源を組み合わせ、地域発展のストーリーを創り、旅行会社などに企画・催行していただく「地域共創インフラツアー」に発展しています。

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト

2016年には「明日の日本を支える観光ビジョン」が策定され、観光を日本の成長に貢献する産業として政府全体で取り組む中で、国土交通省では2018年に『インフラツーリズム有識者懇談会』を設立しました。その実証的な取り組みとして、「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」を立ち上げ、全国からモデル地区を選定し、社会実験として先進的に取り組むことで、その知見を全国に展開しています。

北海道では2020年に東日本最大の吊り橋である『白鳥大橋（室蘭市）』がモデル地区に選定されました。

インフラ施設を管理する機関の職員が案内する場合、回数・時期などに制約が出てくるのが課題であったところですが、室蘭市をはじめ関係機関と室蘭開発建設部の共創により、開発局の職員ではなく民間のガイドによる案内で白鳥大橋の主塔登頂体験を提供するコンテンツと運営の仕組み作りが行われました。現在では、地域の取り組みとして、ツアーが催行され、海上100mから、室蘭港の工場群と大自然を一望する360°の大パノラマを体験していただけます。

十勝岳砂防施設のモデル地区選定

さらに、2023年には、「インフラツーリズム魅力倍增プロジェクト」のモデル地区に、十勝岳の噴火に備える砂防事業である、美瑛町の『青い池（美瑛川ブロック堰堤）』と『十勝岳火山砂防情報センター』が合わせて1地区として加えられ、ツアー造成の検討が進められることになりました。

選定された「青い池」については、十勝岳の噴火により発生する火山泥流から地域を守るために設置された堰堤に水がたまり、美しい景観となったものです。その写真がApple社製コンピューターの壁紙に採用されたことにより、世界的に知られる観光地となりました。既にインバウンド客が多数訪れる観光資源としては成立していましたが、その景観が注目された「青い池」からどのようにインフラとしての魅力を引き出して伝えるのが課題でした。



美瑛川ブロック堰堤と青い池

地元協議会での検討の開始

検討を進めるに当たっては、白鳥大橋に引き続き、インフラツーリズム有識者懇談会の有識者として、跡見学園女子大学の篠原靖先生にご支援いただきました。八ッ場ダム（群馬県）、首都圏外郭放水路（埼玉県）を手掛けられたインフラツーリズムの第一人者です。

美瑛町の観光の特徴は、青い池や美しい丘の観光を中心に年間200万人以上（美瑛町の人口の200倍）が訪れる一方、通過型の観光となっています。篠原先生のアドバイスによって、経済効果が期待できる滞在型観光へ転換するための取り組みのひとつとして検討が進められることになりました。

インフラ・ジオツアーへの発展

インフラツアーとして、参加者に楽しみながらその役割を知っていただくには、歴史や文化などを取り入れストーリーがある内容にすることです。1926年（大正15年）には十勝岳の噴火によって発生した泥流が美瑛川、富良野川に流れ込み、下流の町に甚大な被害を及ぼしました。また、1988年の噴火の際には白金温泉地区で72名が127日間に及ぶ避難を強いられました。インフラの役割を知っていただくには、こうした災害の歴史を伝えることが重要です。



1988年の十勝岳の噴火

また、美瑛・上富良野エリアは2022年に日本ジオパークに認定されています。ジオパークとは、地球科学的に重要で貴重な価値を持つ地形や地質を保全するとともに、教育やツーリズムに活用する取り組みです。

ジオパークで提供されるツーリズムは、美しい自然景観の成り立ちや特色ある文化に感動し、そこから地域遺産への深い理解や、保護・保全に繋げようとする活動であり、これに噴火による大規模災害に備える防災インフラに触れることで、火山とともに生きる地域への理解を深め、自らの防災意識を楽しみながら学べる格好のツアーとなることから、インフラとジオパークを合わせた「インフラ・ジオツアー」として進めていくことが決まりました。

検討体制の構築に当たっては、当初、十勝岳ジオパーク推進協議会と美瑛町を中心とした体制を想定していましたが、地域の有識者の力を借りながら地域との共創でコンテンツを造成し、その運営・販売方法までの

一連を検討する必要があることから、十勝岳ジオパークを形成する上富良野町に加え、両町の観光協会にも中心的な立場でご協力をいただく運びとなりました。上富良野町にご参画いただくことで、北海道開発局の直轄施設である「美瑛川ブロック堰堤」と「十勝岳火山砂防情報センター」を主とした「美瑛コース」に加え、北海道が砂防施設の整備を進める「上富良野コース」を追加して検討が行われました。



上富良野コースの富良野川第2号透過型堰堤

シナリオとガイドの養成

ストーリーを上手に伝えるためには、まずシナリオ作りから始め、火山の成り立ちとその恵み、火山災害の歴史から防災対策の取組み。そもそも「青い池」がどのように作られたのか、どうして青いのかもあまり知られていないため、新たなストーリー作りを地域の方々と共創しながら進めました。

また、それを伝えるガイドの方々の経験の多寡により、得られる体験や満足度が大きく変わらないよう留意し、説明のセリフだけではなく、適度な質問の例や自由に見ていただくタイミング、説明の“間”の取り方など、ガイドのコツまでアドバイスするような内容にするとともに、ガイドの方々がより深い説明をできるように参考文献や専門用語の解説なども加えた本格的なマニュアルが作り上げられました。

青い池とともに対象施設となっている十勝岳火山砂防情報センターは、十勝岳の噴火に備えた監視や対応を行うだけでなく、避難所としての機能を持つ施設です。平常時は十勝岳の防災対策などを伝える展示を行

う施設として、年間1万人以上が訪れています。

この施設の展示についても、ガイドシナリオで整理した物語に沿って、展示内容を再構成しました。十勝岳ジオパーク推進協議会事務局や美瑛町観光協会、旭川地方気象台など関係機関と連携して展示内容の検討が行われ、ガイドのご案内で、インフラ・ジオツアーのストーリーを体験しながら、関係機関が連携した監視体制や砂防施設の働きについて体系的に理解していただける内容となりました。



避難所の機能も持つ十勝岳火山砂防情報センター



ツアー参加者のみ見学できる美瑛川第1号堰堤

さらに、青い池と同じ砂防施設である、美瑛川第1号堰堤を見学場所に加えました。この巨大な砂防堰堤は、ツアーに参加いただいた方々だけが間近で見ることができ、巨大な構造物と十勝岳が一体となったダイナミックな景観に没入するとともに、砂防施設が地域を守るストーリーを体験していただけます。

ツアー催行に向けて

2024年10月25日には、篠原先生、国土交通省、美瑛町などのほか、多くの所属ガイドの方々にも参加していただき、美瑛町観光協会所属のマスターガイドのご案内で、美瑛コースで実際に催行する予定と同様のツアーが試行されました。参加した所属ガイドの方々にはガイド内容の理解・習得をしていただく機会ともなりました。

ツアー催行の準備が整った2025年5月26日には、報道関係者向けの内覧会が実施され、9機関のメディアが参加し、ツアーの催行開始前に大きく報道していただきました。また、ツアー開始後も特集番組がTV放送されるなどの反響があり、順調に参加者を増やしています。

催行2年目に向けて

今年は、大正泥流が発生してから100年の節目を迎え、あらためて、本地域の歴史を知っていただくのに良い機会となります。

本ツアーについては、積雪や気温の低くなる時期が早い地域であり、施設に立ち入る期間や景観を楽しんでいただける期間が限られているため、毎年6月～9月中までの限定となります。参加方法などの詳細は5月から、十勝岳ジオパーク推進協議会のホームページに掲載される予定ですので、しばらくお待ちください。

日本で初めてインフラとジオパークを合わせた体験見学ツアーを実現させたインフラ・ジオツーリズム『十勝岳ものがたり』に、皆さんも是非ご参加ください。

十勝岳ジオパーク推進協議会ホームページ
<https://tokachidake-geopark.jp/>



マスターガイドの案内による試行ツアー



ツアーパンフレット

上富良野コース 泥流と砂防の物語

想定時間: 3時間

集合・解散	十勝岳温泉駐車場
時 間	9:00-12:00 または 13:00-16:00
料 金	10,000円(大人おひとり様)
最少催行人員	2名様
開 閉	6月～9月

モデル行程表

十勝岳温泉駐車場	集合
徒歩	1分
凌雲閣テラス	車
車	35分
上富良野町郷土館	車
車	30分
富良野川第2号透過型堰堤	車
車	30分
十勝岳温泉駐車場	解散

凌雲閣テラスからの眺望(イメージ)

富良野川第2号透過型堰堤

上富良野町郷土館

美瑛コース 『青い水はどこから来たの!?』

想定時間: 3時間

集合・解散 びえい白金温泉・白金観光センター
 時 間 9:00-12:00
 料 金 10,000円(大人おひとり様)
 最少催行人員 2名様
 期 間 6月～9月



モデル行程表

①びえい
白金温泉(発)

5分

徒歩

②白ひげの滝



滞在
15分

15分

車

③十勝岳火山砂防情報センター



滞在
20分

20分

車

④十勝岳望岳台・防災シェルター



滞在
20分

⑤美瑛川第1号堰堤



滞在
30分

10分

車

⑥白金青い池



滞在
35分

5分

車

⑦びえい 白金温泉(着)



10分

車

インフラ・ジオツアー
ならでは体験!!

『青い池の謎を調査!!』

青く見える池の水は本当に青いのか!?
一般の方が入れない場所へ特別にご案内します。

●掲載されている写真はすべてイメージ画像となります。